

研究課題名：間質性肺炎における新規血清マーカーの後方視的研究

研究期間：西暦 2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日まで

対象材料：

■ 血液材料

■ その他（診療録、生理・血液検査結果、過去に撮影された胸部 CT、外科的肺生検組織）

上記材料の採取期間 西暦 1990 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日

意義、目的：

間質性肺炎、特に特発性肺線維症は予後不良な疾患であり、その臨床経過、予後、増悪の予測は困難であり、突然の急性増悪で緊急入院となる例も少なくありません。このため IPF の病態を反映する新たなバイオマーカーの開発が望まれています。血清 Platelet factor 4 (PF4) は血小板由来のケモカインであり、好中球やリンパ球の遊走に関与している事がわかっています。一方、PF4 は血管内皮細胞の増殖と血管新生を抑制するとされており、強皮症患者における検討では間質性肺炎を有する患者で増加したという報告もあります。また Angiopoietin-1 (Ang1), Angiopoietin-2 (Ang2) も血管形成に重要な蛋白であり、こちらも線維化病変との関連も報告されています。本研究では、当院において IPF と診断した症例に対して、PF4、Ang1、Ang2 を後方視的に再検討し、その有用性を検討します。

本研究により間質性肺炎におけるこれらのバイオマーカーとしての新たな知見が認められれば、今後の同疾患治療において非常に有益な情報が得られるため、同疾患に苦しむ患者様においても非常に有益であると考えられます。

方法

本研究は、1990 年 1 月 1 日から 2014 年 12 月 31 日までに、通常診療において間質性肺炎と診断された患者様を後ろ向きに再検討します。保存されていた血液検体を用いて PF4、Ang-1、Ang2 を測定し、その病態、予後などを比較検討します。

通常診療で実施された検査の検体を用いた後ろ向き解析研究であり、新たな有害事象、健康被害や不利益は生じません。また、診療記録や抽出情報は厳重に管理し、論文発表などの際にも個人情報やプライバシーは保全致します。

問い合わせ・苦情等の窓口：

浜松医科大学 内科学第二講座（呼吸器内科）： 榎本紀之 053-435-2263